

大津・南部 の森づくり

平成25年(2013年) 3月 8日発行

<編集・発行>

滋賀県西部・南部森林整備事務所 林業振興担当

TEL 077-527-0655 FAX 077-523-1831

E-mail dj35@pref.shiga.lg.jp<http://www.pref.shiga.jp/d/o-ringyo/>

逢坂山生産森林組合の搬出間伐の取り組みについて

平成24年度施業内容

実施面積：約10ha 間伐材搬出量：約600m³

主な販売先：合板工場、地域製材所など

大津市仰木町の逢坂山生産森林組合における搬出間伐についてご紹介します。

逢坂山生産森林組合では、100haあまりの森林を有し、林業経営を行ってききましたが、近年は植栽木が大きくなり、自力での間伐施業が困難となって、手入れが必要な森林が増加しています。そこで森林整備を進めるべく、森林組合による搬出間伐施業の提案を行ったところ、同意をいただくことができ、2012年9月～12月の間、作業道整備と搬出間伐に取り組んできました。10月には施工者である滋賀南部森林組合の提案で、現場見学会が実施され、逢坂山生森の役員の皆さんに施業現場を見ていただき、内容について概ね理解が得られたと思います。

今後、森林経営計画作成など課題がありますが、森林組合や生森の皆さんと協力し、よりよい山づくりを行なっていきたいと考えています。



▲施業完了後の山林状況



▲現場見学会の様子

林研グループ交流学習会が開催されました



▲保育園を視察(草津市)

大津市内の林業研究グループである、大津市林業振興会と、滋賀県林業研究グループ連絡協議会とが合同で、林業研究グループの地域技術交流会を開催されました。

草津市内の保育園で、地域材利用の取り組みについて現地視察したあと、大津市大石富川町の滋賀南部森林組合施業現場で列状間伐の取り組みを見学しました。

園内には、県内で間伐された木材を使用した、無垢の床材や、木製の仕切り扉、木製遊具、木製棚などがあり、園



長先生から子供達も大変気に入っているというお話がありました。列状間伐の現場見学では、列状間伐のメリット、デメリットについて出席者の間でも意見交換が活発に行われました。

林業研究グループの皆さんは、普段それぞれの地域で林業に関わる取り組みを実施されておられますが、このように他の地域の現場を見学したり、他の林業研究グループの方々と意見交換することによって、より意識を高め、さらなる活躍をしていただけると期待しています。



▲列状間伐現地視察（大津市）

木を見て森を見る…大津・南部の樹木探訪

「コブシ」

コブシは滋賀県内の山間部でもよくみられるモクレン科の落葉高木です。純白の花を咲かせるコブシは、春を告げる花木として親しまれています。山でも、木々の葉が展開する前に白い花を多く咲かせ、冬枯れの林のなかでひとときわ白く目立ちます。

タムシバも同じように白い花を咲かせますが、コブシには開花時に花のすぐ下に小形の葉（托葉）があり、タムシバにはそれが無いことで見分けられます。

コブシという名前の由来は、果実の形が「にぎりこぶし」に似ているからと言われています。



▲こぶしの花



▲こぶしの実



▲こぶしの花

～林業技術情報～

獣害対策について



近年ニホンジカの生息数が増加したことで、森林の被害も顕著になっています。今回は人工林での被害と防除について取り上げます。県内でのシカによる人工林の被害面積は平成10年度には約50ha程度でしたが、平成22年度の被害面積は約235haに増加しています。シカの捕獲数も増加していますが、いまのところ被害の増加をとどめるには至っていないようです。被害の防止には以下のような方法がありますのでご紹介します。



防護柵：苗木を植栽した場所を囲ってシカの進入を防ぎます。一本ずつ対策を講じる網等よりは安価ですが、ひとたびシカに進入されると効果がなくなるので、積雪による倒壊等に対して適切な維持管理が必要です。



獣害防止網：植栽した苗木一本ずつに支柱をたてて網を巻き付けたり、筒で囲ったりする方法です。製品として様々なものがありますが、積雪によるゆがみなどには維持管理が必要です。



テープ巻き：ある程度大きくなった造林木に市販のビニールテープをらせん状に高さ1.5m程度まで巻き付ける方法です。比較的安価に実施でき、シカによる剥皮被害をかなり防ぐことができます。テープは5年～7年くらいで劣化します。

維持管理も大切なんだね

